

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成26年 5月29日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 小麦は全般に生育のばらつきが大きい状況ですが、全体的に出穂は平年並み～やや早くなりました。県中南部では開花が概ね5/20以降から始まっています。これから防除を行う地域では開花状況を確認して防除を実施しましょう。生育量が小さいため、今後成熟が早まる可能性があります。収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で望みましょう。
- ◆ 大豆 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。放射性セシウム吸収のリスクを低減するため、カリ肥料の施用を実施しましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

## 小麦

### 1 赤かび病の防除

4月下旬以降気温が高い状況が続いたことなどから、小麦の出穂はゆきちからでは平年並～3日早い一方、ナンブコムギでは平年並と、品種や播種時期による生育のバラツキが大きくなっています。また、全体に晩播や干ばつの影響で生育量が小さい見込みです。県中南部では5/20頃から開花が始まっていますが、これから防除を行う地域では、開花状況を見極めた上で適期に散布してください。赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になりますので、表1を参考に防除を行いましょう。

穂が緑色のうちに圃場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。また、赤かび病が多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

表1 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7～10日後	2回目散布の 7～10日後
ナンブコムギ	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)	—
ゆきちから 銀河のちから ネバリゴシ	◎ (必須)	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)

### 2 乾燥・調製施設との連携

- (1) 全般に出穂が平年並み～やや早いことに加え、生育量が小さいことなどから今後成熟が早まる可能性があります。また、小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。このため適期内に収穫できるよう、圃場排水対策や機械等の点検整備を早めに行っておきましょう。
- (2) 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

# 大豆

## 1 排水対策の実施

- (1) 排水不良は出芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。
- (2) 播種前に弾丸暗きょやサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦畔の内側に溝幅 20～30cm、深さ 15～30cm の溝（額縁明きょ）を作り、圃場水尻の排水口につなぎましょう。

## 2 施肥・耕起・砕土・整地

- (1) 放射性セシウム吸収のリスクを低減するため、カリ肥料の施用（土壌中カリ含量 40mg/100g まで改良）を実施しましょう。
- (2) 砕土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う出芽不良などの原因となります。
- (3) 砕土はよく乾いた圃場から行いましょう。
- (4) 耕うん・砕土後（特にロータリ耕後）は、土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。

## 3 播種作業…栽植密度を確保するため次の点に留意を

### (1) 播種適期

概ね表 2 のとおりです。播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想される場合は作業を控えましょう。逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽の障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

表 2 大豆の品種別地帯別播種適期

早晚生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・シュウリュウ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播） （晩播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
		—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

### (2) 播種様式

畦幅（条間）は、その後管理する機械に合わせて設定します。品種別の栽植密度は表 3 を目安にしてください。

表 3 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	青丸くん	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万2千
畦間×株間(cm) *	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×30～24
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	2.5～3	3.5～5.3

\*) 畦間を 70cm、1 株 2 本立てとした場合を示しています。

播種量は百粒重で変化するので、次ページの参考表も参照してください。

「ユキホマレ」の麦後栽培では、畦間 30cm 前後の狭畦密植とします。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整します（晩播ほど密植とします）。

### (3) 播種量

同じ栽植密度でも種子の大きさにより播種量が変わりますので、適正な栽植密度となるよう、種子の大きさに応じて播種量を決めましょう。主な品種の種子の大きさは次の通りです。

＜参考＞採種圃産種子（24～25年播種用の例）→表3も併せて活用ください。

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	大粒	29.5～31.8	3.6～3.8程度
ナンブシロメ	中粒	26.0～27.7	3.1～3.4程度
ナンブシロメ	小粒	20.4～21.1	2.5程度
リュウホウ	大粒	34.6～35.0	4.2程度
リュウホウ	中粒	27.5～28.4	3.3～3.4程度

### (4) 病虫害防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤（商品名：クルーザーMAXX）やチウラム水和剤等で種子消毒をします。チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤（商品名：クルーザーMAXX）については、塗抹後に十分余裕をもって乾燥時間をとり、播種するようにしてください。

### (5) 雑草防除

ア 播種後の土壌処理剤の散布は必須です。播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。  
イ 覆土が浅すぎる場合は薬害の生じる場合があります。覆土は2～3cm以上確保しましょう。

### (6) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

ア 中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。  
①雑草防除、②倒伏防止、③土壌の通気性を良好にし、地温を上昇させ根の機能を向上させる  
④発根を促進し、根群を発達させる、⑤土壌の排水を良好にする  
中耕培土の時期は大豆2～3葉期と5～6葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて（除草剤の効果がなくなってきたら）、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと（おおむね1葉節以下）に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。  
イ ディスク式中耕除草機：近年ディスク式中耕除草機の普及が進んできています。ディスク式中耕除草機的主要なメリットは、①湿潤土壌でも土の練りが少なく適期作業が可能、②作業能率・燃費に優れる、③畦立て栽培に適しており除草効果が高い、などが挙げられます。詳しくは農業改良普及センター等に問い合わせください。

**春の農作業安全月間実施中！** [ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]

**豊作を無事故で迎える いわたの農業！**

次号は6月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。